

【胆江日日連載（石川浩一記者）】

「新平に会いに行く」 完結

平成30年4月11日、生誕160周年の節目を機にスタートした標記連載が、令和2年10月21日をもって終了しました。2年半に亘り、毎週水曜日、130回に及ぶ掲載となりました。お疲れさまでした。



【石川さんのお話】11月4日取材

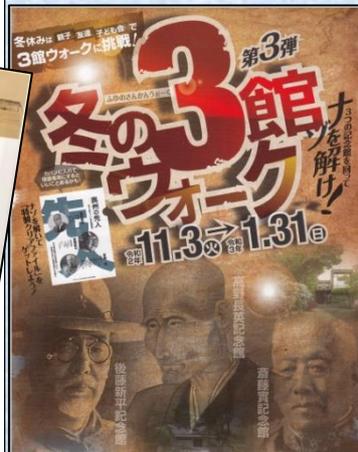
「国際化の波の中で、遠くへ遠くへと視線が向きがちだが、遠くまで目を向けなくても、身近な故郷に立派な人がいる。それをもう一度見直すことも大事ではないか」と話す石川さん。「少々元気がなくなっている今の日本を見た時、元気を与えてくれるキャラクターは誰なんだろうと考えた時に、明治中期から大正にかけて後藤新平と言う人が、非常に元気に活躍していた。要するにエネルギーの塊というか、そういう人にスポットを当てて紹介していきたいと思った。」と、連載の動機を語ってくれました。後藤新平の全生涯を取り上げ、滅多にお目にかかれない蔵出し資料の数々をお披露目して下さったことに改めて感謝いたします。



【奥州市広報】



県内マスコミから始まった「後藤新平の検疫事業」の取材攻勢も、全国版のマスコミを経て、いよいよ最終段階の地元マスコミの取材が集中してきました。今回は、奥州市の全戸配布の広報11月号。4ページの特集です。広聴広報係佐々木聖係長の熱心な下調べに基づいた精細な記事に、「さすが記者魂」の思いを強くしました。



【「冬の3館ウォーク」スタート】

高野長英・後藤新平・齊藤實の各顕彰会がネットワークを組む標記事業が、今年も十一月三日からスタートしました。顕彰会の会員の方々が、周知のための学校訪問や休日のボランティアガイド等、「子ども達のために」という思いで積極的に活動して下さっています。親子の貴重なふれあいの場にもなることを期待して。